# QOLサポーター新潟

— 新潟医療福祉大学広報誌 —

第3号

2001年12月20日発行　新潟医療福祉大学広報委員会編集

新潟医療福祉大学のシンボルマークは医療福祉の本質から生まれました。医療技術学部の理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、健康栄養学科と社会福祉学部の社会福祉学科の2学部5学科それぞれの専門分野から手を差し伸べて対象者を支えるQOLサポーターの姿勢を示しています。

## 第3号では5学科の中から健康栄養学科と社会福祉学科を特集しました。

### 健康栄養学科の特徴

生活習慣病が国民の健康問題の大きな課題となっており、これらの発症と進行を防ぎ健康を増進するには生活習慣の改善、なかでも食生活の改善が重要であり、より専門化された知識・技術に基づく栄養指導が求められてきました。これに対応して、2000年に栄養士法が改正され、栄養士の従来の業務に加えて、「傷病者に対する療養のため必要な栄養指導」が明確化され、医療関係の専門職に位置付けられて管理栄養士の職域が拡大し、社会的役割・評価が高められています。本学科では、管理栄養士の養成を目指し、4年の課程終了時に栄養士の免許取得と同時に、管理栄養士国家試験の受験資格が得られるようカリキュラムを組んでいます。本学では、主実習施設として新潟リハビリテーション病院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設があり、また関連校のJAPANサッカーカレッジ（平成14年4月開校）と連携し、食事指導をとおしてスポーツ栄養の専門家の養成を目指します。近年、消費者のニーズが多様化・高度化し、食物に対する安全志向・健康志向が強まるなど、誰もがより安全な食生活を求めるようになってきました。これに対応して、消費者サイドに立った流通・消費の分野における食の専門職として「フードスペシャリスト」が誕生しましたが、この認定試験の受験資格も得られ、さらに多方面での活躍が期待されます。充実したカリキュラム・教育を通して、実践力を身につけた心豊かな人材を社会に送り出したいと願っています。

### 社会福祉学科の特徴

少子高齢化が進む中、児童虐待や高齢者介護をめぐる問題など、専門的な社会福祉援助を要する問題が私たちの身近なところで起こる世の中になってきました。経済的な競争が厳しさを増し、生活が不安定になり、人間関係が希薄になっている現代社会。生涯にわたって病気・障害などの有無にかかわらず、人間性豊かな暮らしを安心して送れる福祉社会の実現が求められています。本学社会福祉学部社会福祉学科では、地域社会において福祉サービスの利用者と十分なコミュニケーションを取りながら、保健・医療専門職とのチームワークにより、総合的生活支援に取り組めるソーシャルワーカーの養成を目指しています。そのために必要な基礎資格である社会福祉士資格の取得に向けて、必修科目を履修して、卒業年次に国家試験を受験できるカリキュラムが組まれています。さらに保健・医療に関する科目を医療技術学部の学生と共に学び、交流するよう図っています。少人数のゼミを1年次から行うほか、現場実践学習を重視し、段階的に児童・障害者・高齢者等の福祉施設・機関で実習を行う機会を設けています。それらを通じて社会福祉士に必要な幅広い専門的知識・技術・倫理を習得し、豊かな人間性を育んでいくことを目指しています。

### 誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同等に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する（サポート）人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様に本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

# 医療技術学部健康栄養学科　専任教員紹介

## 家庭・郷土料理にも目を向けましょう！

●教授　荒井　冨佐子

現在、管理栄養士・栄養士の職場は病院、福祉施設、事業所、学校等給食を実施しているところが大半を占めますが、主な業務は集団を対象として栄養管理された食事を提供することです。しかし近年、食の社会化が急速に進み、外食・中食産業にも栄養士の進出がみられるようになりました。従って、平成14年度から、「給食管理」はマネージメントまで組み込んだ内容に改訂される予定です。「ボランティア実習」は専門分野の学習だけではなく、ボランティア活動を体験することにより、地域社会とのつながりの中に広い視野を持ち、豊かな人間性をみがくことを目的とした科目です。

研究面では、平成13年度より調理科学会・関東支部の会員で「調理文化の地域性と調理科学」というタイトルで調査をしています。新潟県立女子短期大学、新潟大学及び本学との共同で、新潟市及び近郊、長岡市等で家庭料理や郷土料理の調査をしています。

【担当科目】：給食管理、学内実習、学外実習、栄養学実習、ボランティア実習

## 地域レベルで考えて、地域で行動するために

●助教授　村山　伸子

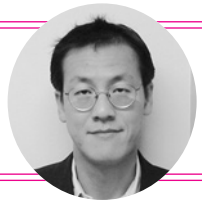
公衆栄養学の目的は、地球上に住む全ての人のQOLの向上、健康の向上です。そのために、栄養、食の面でのマネージメントをどうするかが、教育・研究の内容となります。公衆栄養学の対象は、特に個体～地球までの幅広い範囲を対象としています。また、地域での食の営みは、狭義の栄養学以外に農水産学、経済学、政策学、環境科学、生態学、行動科学、マーケティング論、教育学など広範な分野の影響を受け、また逆にそれらに影響を及ぼすので、研究面でも実践面でもそれらの分野との連携が重要です。

現在、関心をもっているテーマは、国内外の地域ベースのヘルスプロモーション活動としての参加型保健・栄養プロジェクトについて、その計画づくりから評価までです。また、国外のフィールドワークは、栄養欠乏が問題となっている国、栄養不足から過剰への転換期にある国、過剰が問題となっている国まで、バングラデシュ、タイ、トンガ王国などでおこなっています。

【担当科目】：公衆栄養学（特に栄養政策、栄養生態学、国際栄養学）

## 筋肉の胃袋を大きくしたい

●講師　川中　健太郎



講義実習で運動生理学と解剖生理学を担当しております川中健太郎です。新潟に赴任する直前までアメリカ中西部の街セントルイスで運動生理の研究活動を行っておりました。帰国の翌週から慣れない講義が始まり前期は本当に大変でした。助けて下さったスタッフの方々、また、そんな私の話を熱心に（冷や汗を流しながら講義する私に哀れんで？）聞いてくれた健康栄養学科の諸君、ありがとうございました。（この正直さと熱意のため、皆から“健ちゃん”と呼ばれ、慕われております。〔編集委員〕）

学生時代に没頭した陸上長距離への興味が高じて運動生理の道に入りました。私の研究は簡単にいうと筋肉の食欲調節。筋肉にとってそのご飯は血糖なのですが、運動して腹が減った（エネルギーが枯渇した）筋肉が大飯（血糖）を喰らうメカニズムを研究しています。筋肉の胃袋を大きくする方法をみつけて糖尿病治療やスポーツ選手の食事処方に役立てるのが目標です。

【担当科目】：運動生理学、解剖生理学Ⅱ、解剖生理学実習

中庭にて名物先生と昼食会

8月に行われた第一回教育ワークショップ後も随時教育技法について職員研修を実施しています。

## 教員紹介

平成13年度就任 専任教員

氏名
・職
・前職
・専門分野

**村山篤子**
・教授
・川村短期大生活学科長
・調理科学

**堀田康雄**
・教授
・カリフォルニア大名誉教授
・生化学・分子生物学

**荒井冨佐子**
・教授
・桜の聖母短期大
・給食管理

**高橋一栄**
・教授
・鳥屋野中学校校長
・体育科教育

**山本通子**
・教授
・防衛医科大学校第3内科
・代謝・内分泌学

**宮岡洋三**
・教授
・山形県立米沢女子短大
・生理学

**遠藤和男**
・教授
・新潟大医学部
・衛生・公衆衛生学

**斎藤トシ子**
・助教授
・仙台市健康増進センター
・健康教育学

**村山伸子**
・助教授
・東北大大学院医学系研究科
・公衆栄養学

**伊藤直子**
・講師
・農水省農業生物資源研究所
・植物の分子遺伝学

**川中健太郎**
・講師
・ワシントン大医学部応用生理学部門研究員
・運動生理学

**西原康行**
・講師
・㈱ミズノ経営企画部
・スポーツ経営学･社会学

平成14年度4月からさらに2名専任教員が増員されます。
ほか6名助手がいます。

# 社会福祉学部社会福祉学科　専任教員紹介

## （略歴、学会・社会活動、主要著書・論文）

**山手　茂**　社会学・社会福祉原論等担当。
東京女子大・茨城大・東洋大各教授を経て、本学社会福祉学部長に就任。社会福祉学博士。
日本保健医療社会学会前会長、日本医療社会福祉学会元会長、日本学術会議社会福祉研連第16・17期委員、日本社会事業学校連盟社会福祉専門職検討委員会元委員長。『社会問題と社会福祉』『福祉社会形成とネットワーキング』のほか『地域福祉論』（共著）『医療ソーシャルワーカーの役割と専門技術』（共編著）など多数。

**手塚直樹**　障害者福祉論担当。
国立職業リハビリテーションセンター職業指導部長、日本理化学工業株式会社常務取締役、静岡県立大学短期大学部社会福祉学科教授を経て、本学教授に就任。
中央児童福祉審議会委員、東京都心身障害者対策協議会委員、東京都障害者ケアマネジメント対策協議会委員長等各委員を歴任。『障害者福祉論』『日本の障害者雇用』『障害者福祉とはなにか』など著書多数。

**横山和彦**　社会保障論・社会政策論・公的扶助論等担当。
日本社会事業大教授、新潟大教授を経て、2003年教授就任予定。経済学修士。
社会政策学会、日本年金学会（幹事）で活動。社会保障研究奨励賞（大内賞）受賞。『社会保障論』のほか、『年金制度と高齢労働問題』『老齢保障論』『社会保険の構造と課題』『日本の経済と福祉（『福祉国家』5）』『福祉政策の危機と国民生活』『社会福祉の現代的展開』『転換期の福祉国家（下）』など共著および論文が多数。

**高橋正夫**　大学英語等担当。
新潟大学教授を経て、2003年本学教授に就任予定。日本音声学会、大学英語教育学会、日本語学ラボラトリー学会、英語授業研究学会（理事）などで活動。『入試指導を考える』（単著）のほか、『英語リーディング指導の基礎』『英語教師の発想転換』『英語教育学概論』（以上共著）、『身近な話題を英語で表現する指導』（単著）など著書・論文多数。

**塩見義彦**　児童福祉論・障害者福祉論等担当。
新潟県児童相談所・身体障害者更生相談所、県庁福祉行政職、各種福祉施設管理職、コロニーにいがた白岩の里所長、県中央福祉相談センター所長等を経て、本学助教授に就任。
新潟県福祉研修センター運営委員、施設部会委員長、県精神薄弱者愛護協会会長、全国愛護協会評議員、県社会福祉審議会委員、新潟市男女共同参画審議会委員等歴任。『重度心身障害者施設整備基本構想（ミニコロニー構想）』等多数の福祉計画策定、実施に参画。共著、報告書等多数。

**豊田　保**　児童福祉論・社会福祉援助技術等担当。
東京都福祉局・障害者福祉施設・高等保育学院の福祉専門職・専任講師を経て、本学助教授に就任。教育学修士、社会学修士。
日本教育学会、日本特殊教育学会、日本社会福祉学会、日本NPO学会、日本地域福祉学会、日本ボランティア学会等で活動。『子どもの感性と発達』のほか、『社会福祉基本用語集』（共著）、『福祉社会の最前線ーその現状と課題』（共編著）など著書、論文多数。

**柴山悦子**　社会福祉援助技術等担当。
健康保険諫早総合病院・藤田保健衛生大学病院医療ソーシャルワーカーを経て、本学講師に就任。
日本医療社会事業協会（業務養成検討委員会委員・50周年記念誌編集委員）、愛知県医療ソーシャルワーカー協会（卒後研修検討委員会座長）で指導的役割を果たし、厚生労働省・日本医療社会事業協会共催の医療ソーシャルワーカー講習会講師など生涯研修活動のリーダーになっている。『医療ケースワークの初歩的実践』『保健・医療ソーシャルワーク』『保健医療ソーシャルワークハンドブック』『保健医療の専門ソーシャルワーク』など共著、論文多数。

**横山豊治**　社会福祉援助技術等担当。
リハビリテーション加賀八幡温泉病院・静岡済生会総合病院医療ソーシャルワーカー、国際福祉医療カレッジ・上智社会福祉専門学校専任教員などを経て、本学講師に就任。社会福祉士、社会福祉学修士。
日本医療社会事業協会（50周年記念誌編集委員）、日本社会福祉士会（生涯研修センター運営委員会副委員長）、日本社会福祉学会・日本社会福祉実践理論学会で活動、『戦後社会福祉教育の50年』『社会福祉援助の共通基盤（上巻）』など、共著、論文多数。

**松井奈美**　社会福祉援助技術・介護概論等担当。
習志野市福祉部介護福祉専門職員、浦和短期大学福祉科専任講師などを経て、2002年本学講師に就任予定。社会学修士。
日本介護福祉学会・福祉文化学会・日本社会福祉学会で活動。『在宅介護におけるターミナルケア――ホームヘルパーの実践から』、『介護福祉実習』など共著・論文多数。社会福祉援助技術実習指導・介護福祉研修などの経験豊富。

〔2001年度　専任教員〕

**園田恭一**　保健福祉計画論・老人福祉論・地域福祉論等担当。
東京大助手、お茶の水女子大助教授、東京大教授、東洋大教授を経て、2003年本学教授に就任予定。保健学博士、東京大学名誉教授。
日本社会学会（理事）、日本保健医療社会学会（会長）、日本保健福祉学会（理事）、日本地域福祉学会（理事）などで指導的役割を果たしてきた。『地域社会論』『現代コミュニティ論』『保健・医療・福祉と地域社会』『健康の理論と保健社会学』『地域福祉とコミュニティ』のほか、編著・論文多数。

**林　千治**　医学概論・内科学・老年学等担当。
新潟大学医学部助教授、新潟市保健福祉部参事・保健所健康増進課長を経て、本学教授に就任。医学博士。内科認定医、循環器専門医、超音波専門医。
日本内科学会・循環器学会等医学関係学会で活動。『運動と突然死』『不整脈学』『栄養指導論』『治療のしかた』（共著）をはじめ専門論文多数。地域保健福祉活動・リハビリテーションに指導的役割を果たしてきた。

**小野昭一**　大学英語等担当。
新潟大学医療技術短期大学部・上越教育大学各教授を経て、本学教授に就任。学生部長を兼任。上越教育大学名誉教授。
大学英語教育学会、関東甲信越英語教育学会等で活動。『看護学生の医学英語』『英語音声学概論』『英語音声の基礎』をはじめ著書、論文、英訳多数。

**古林淑子**　社会福祉文化論等担当。
ストックホルム大学社会研究所客員研究員、六合福祉文化研究所主任研究員、文京女子大学教授等を経て、2004年に本学教授就任予定。
日本生活学会、日本社会福祉学会、日本福祉文化学会、日本地域福祉学会等で活動。『生活福祉への助走』をはじめ『社会事業に生きた女性たち』『養育院百年史』『老人福祉とは何か』『社会福祉原論』『児童の福祉』『21世紀社会福祉学』『生活福祉論』『福祉文化論』など共著・論文多数。

**伊東正裕**　臨床心理学・カウンセリング論・精神保健福祉援助技術等担当。
東京都心理技術職として都神経科学総合研究所・豊島病院精神科・梅ケ丘病院精神科・児童相談センター治療指導課・高等保育学院等を経て、本学助教授に就任。臨床心理士。
日本精神分析学会・日本心理臨床学会・日本心理劇学会（理事）等で活動。『“甘え”理論の研究』『受験生、こころの参考書』『こころとからだの健康百科』（共著）など共著、論文多数。

**伊藤冨士江**　社会福祉援助技術論等担当。
ウイスコンシン州立大学マディソン校社会福祉修士課程修了。日本社会事業大学社会事業研究所研究員、聖カタリナ女子大学助教授を経て、本学助教授に就任。Master of Science Social Work，社会福祉学博士。
日本ソーシャルワーカー協会、日本家族研究・家族療法学会、日本社会福祉学会、日本社会福祉実践理論学会等で活動。『ソーシャルワーク実践と課題中心モデル』をはじめ『ソーシャルワーク実践における家族エンパワーメント』（共訳）、『社会福祉援助技術演習』（共著）をはじめ著書・訳書・論文多数。

**丸田秋男**　社会福祉援助技術等担当。
新潟県児童相談所児童福祉司、中央福祉相談センター企画指導課長、長岡地域福祉センター次長、県福祉保健部障害福祉課参事を経て、本学講師に就任。社会福祉士。
厚生労働省障害者ケアマネジメント検討委員会委員、新潟市生徒指導委員会委員、長岡市青少年問題協議会・不適応対策研究委員会各委員、新潟県社会福祉研修事業運営委員会委員など、豊富な社会福祉実践経験を活かして指導的役割を果たしてきた。『保健社会学』『児童相談事例集』など共著・論文多数。

**廣瀬清人**　心理学等担当。
東北大学大学院情報科学研究科博士課程、知的障害児・者施設長、厚生省児童家庭局職員、東北福祉大学助手等を経て、本学講師に就任。情報科学博士。
日本心理学会・応用心理学会・健康心理学会で活動。「情動の評価説からみたストレッサー情況の想起に関する研究」（博士学位論文）、「精神薄弱児・者の呼称を変えよう」「看護婦のストレス対処行動の有効性に関する研究」（共著）など心理学および知的障害児・者に関する論文多数。

**松山茂樹**　社会福祉施設運営管理論・ケアマネジメント論等担当。
身体障害者療護施設・特別養護老人ホーム等のソーシャルワーカー・施設長などを経て、2004年に本学講師に就任予定。社会福祉士。
日本ソーシャルワーカー協会・新潟県社会福祉士会（副会長）・日本社会福祉士会（代議員）・日本社会福祉学会で活動。社会福祉士生涯研修活動・ボランティア活動など社会福祉推進に指導的役割を果たしてきた。『基礎から学ぶ社会福祉講義』（共著）など。

## キャンプ実習

「海辺の森」ランプの光で「センス・オブ・ワンダー」を読む

スポーツ・健康Ⅰ講座の一環である「海辺の森」キャンプが、6月中旬から7月中旬にかけ、学科毎に1泊2日で開催されました。ランプの光のもとで「センス・オブ・ワンダー」を読み、自然や仲間の大切さを実感することができたのではないでしょうか。

## トレッキング実習（尾瀬）

快晴の3日目、燧（ひうち）ヶ岳を望んで

スポーツ・健康Ⅱ講座の一環であるトレッキング実習が、9月4日から6日まで2泊3日で行なわれました。尾瀬をトレッキングし、尾瀬小屋主人である平野紀子さんから、自然や環境保全についてレクチャーを受けました。

## 大 学 祭

10月28日（日）初めての大学祭が賑やかに行なわれました。途中から雨が降って来たものの、来場者の数はのべ約500人。天候や初年度ということを踏まえると大成功と言えるのではないでしょうか。はじめは戸惑ったものの、自分たちでゼロから作る難しさを知ることができ、とてもいい経験になりました。1年生だけしかいない大学祭でこれだけ盛り上がったわけで、3年後を考えると今から楽しみです。

フリーマーケットの収益70,301円を近くの「太陽の村」に寄付したことは地元紙にも紹介されました。関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。来年も盛り上がっていきましょう。

（学友会会長　齊藤公二）

### ●入試日程のご案内

**一般入学選考試験**

＊募集学部・学科

| | |
|---|---|
| 医療技術学部 | 理学療法学科、作業療法学科<br>言語聴覚学科、健康栄養学科 |
| 社会福祉学部 | 社会福祉学科 |
| ◆前期日程 | 新潟試験会場（本学）<br>東京試験会場 |
| 出願期間 | 平成14年１月14日（月）<br>～平成14年１月31日（木） |
| 入学選考試験日 | 平成14年２月６日（水） |
| 合格発表日 | 平成14年２月14日（木） |
| ◆後期日程 | 新潟試験会場（本学） |
| 出願期間 | 平成14年２月18日（月）<br>～平成14年３月１日（金） |
| 入学選考試験日 | 平成14年３月９日（土） |
| 合格発表日 | 平成14年３月16日（土） |

http://www.nuhw.ac.jp